町長タウンミーティング【ハマナス町会】議事録（要旨）

日時：2025/11/20（木）19:00〜20:30
場所：ハマナス公民館　ホール
参加者数：15 人

●　町長説明

●　意見交換

【復旧復興・被災者支援】

Ｑ１．液状化対策の方法が、もしうまくいかなかった場合、次の手はあるのか。

Ａ１．国では、これまでの東日本大震災や熊本地震などによる液状化被害のデータを所持しており、色々ある方法の中から内灘町の地質に合う方法として、この２つを選別し、実証実験を始めている。この２つの方法を施せば効果は出ると考えるが、熊本の例ではほとんどの地区が住民の判断により液状化対策工事をしなかった。現在は住民合意がなくても対策工事ができるよう制度改正されているが、町としては、必ず住民合意を得て進めたいと考えている。住民合意が得られないエリアにおいては、対策工事をしないという選択もあると考える。

Ｑ２．熊本で、住民側が液状化対策工事に合意しなかった理由は何か。

Ａ２．地下水位低下工法の場合、ポンプを稼働して水を抜くため、その電気代や、管の洗浄、ポンプの更新など、莫大なランニングコストが見込まれる。この費用に対し住民負担を求めたので合意に至らなかったものと考える。

【まちづくり・地域振興】

Ｑ３．旧消防署付近の被災地では住家の解体が進み、更地が広がっている。これらは民有地だが、町としてあの広大な更地を利活用する考えなどあるのか。

Ａ３．個人の所有地であり、住宅を再建したいという方々も少なからずいる。町としてできることは、早急に地籍調査を行い、土地境界の確定、上下水道の復旧、道路インフラの整備をすることである。きちっと面的な整備をし、また皆さんが戻ってこられるようなエリアにしたい。

Ｑ４．役場敷地内のキャッシュコーナーが、今は JA の ATM しかない状況。今後どうなるのか。

Ａ４．役場を建設した当初は、各金融機関にお願いして ATM が多数設置されたが、近年のネットバンキングの普及や、ATM にかかるランニングコストによって、金融機関における縮小の方針のもと徐々に撤去され、現状、JA の ATM だけとなっている。町では、キャッシュコーナーの中に冷房を設置し環境改善を図りながら、JA

には撤退しないようお願いしているところである。

Ｑ５．風力発電が止まったままで、見るたびに勿体ないと感じる。今後は何か考えているのか。

Ａ５．風力発電施設は、国の補助を受けて設置し、耐用年数が過ぎようとしているところ。落雷などによって度々壊れており、最後の修理では 5～6000 万円かかった。当時はこの修理費も３年間の売電で賄えると見込んで修理したが、その１年半後に再び故障して動かなくなり、今度は修理費が１億円と言われたため、町では稼働を停止した経緯がある。オブジェとして残すという意見もあるが、残しておくことで保険料などコストがかかり続けるため、私としては撤去したいと考えている。

Ｑ６．公民館の使い勝手が悪い。もっと町民が気軽に公民館を利用できるようにしてほしい。

Ａ６．公民館の使い勝手が悪いという声は他からも聞く。昔は学校帰りに公民館に集まって卓球をしたり、雨の日には遊びに行ったりしたもの。今は、貸し時間をきっちり管理し、費用も徴収する。管理上大事なことだが、核家族化が進む昨今、子ども達にも社会教育のような形で触れ合える、そういった誰もが行ける公民館づくりや制度の見直しを検討していきたい。

【福祉・子育て・教育】

Ｑ７．夕陽ヶ丘苑のデイサービスは再開しないのか。

Ａ７．施設が古くなり改修しないと使えない状況なので、再開に向けて改修費用がどれくらいになるか積算する必要がある。また、職員が不足しているため、人員確保も必要である。なお、現在インドネシアの方２名を外国人研修生として受け入れたところである。今後、再開に向け、しっかりと協議・精査していきたい。

【防災・安全・住環境】

Ｑ８．遊歩道（学園緑地）は、多くの方が散歩する気持ちのよい環境だが、季節によっては雑草が繁茂し通れない。いつも皆が歩きやすいような場所にしてほしい。

Ａ８．学園緑地は、ハマナス団地を造成する際に、大清台の方々の要望により残したところ。それから年月が経過し、樹木も大きくなって荒れ地になっていることから、ハマナス側からも大清台側からも対策を求める声が出ている状況。今は復旧復興が最優先ではあるが、朽ちた樹木の対策も必要であり、遊歩道や芝生、施設整備などしっかり調査して、良い形にしていきたい。

Ｑ９．災害時に自分達がするべき事のマニュアルが分からない。住民台帳を新たにし、どの家に誰が住んでいるか分かれば、災害時に誰でも助けに動ける。防災士や民生委員、町

会役員などの集まりで、そういう要支援者についての研修会や情報交換などあるのか。

Ａ９．町では現在、地域防災計画の更新を進めている。今後は、各地区においても「地区防災計画」について協議していただくことを計画しているところである。高齢者や障がい者など要支援者については、町で年に１回名簿を更新しており、その内、関係団体との情報共有に同意いただいた方々の名簿を、町会長はじめ、民生委員、防災士、消防団に共有している。個人情報保護の観点から情報共有の範囲は限定的になる。広く名簿が出回ると、犯罪に繋がるおそれがあるので、共有している関係団体で災害時に迅速に支援行動を取れるよう、しっかり計画し、連携していきたい。

Ｑ１０．外国人は、普段から防災訓練に出てこないし、案内も届いていないので、災害時にどのように行動したらよいのか分からない。

Ａ１０．私が受けた研修では、消防庁の講師よりスマートフォンに翻訳アプリを入れるよう説明を受けた。アプリを活用しながら、避難所の場所や支援物資の情報などを伝えられるよう検討する。

【インフラ・都市整備】

Ｑ１１．中国庭園の池の水が汚いので対策をお願いしたい。

Ａ１１．水の循環を止めていることが要因だと聞く。どういった方法が有効か考えていきたい。

（閉会）